

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2009年度は委員会を5回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

第1回(6月5日):①2009年度各種委員会員の委嘱について

第2回(6月26日):①自己点検・評価報告書について②2010年度教育・研究に関する年度計画書について③特別資料の選定について

第3回(11月4日):①2010年度予定経費要求の内容

第4回(2月1日):①2010年度図書館図書費配分について②2010年度研究用図書の申込締切日について③2010年度図書館特別資料の募集について④2010年度研究用基礎資料の募集について⑤2011年研究用雑誌・新聞新規購入の募集について⑥生田図書館と川崎市立図書館との相互協力について

第5回(3月29日):①2010年度図書予算について②図書館各種委員会について

以上に基づき実施された政策の特記事項として、以下が挙げられる。

- ・ 生田図書館と川崎市立各図書館との相互利用協定締結：第4回⑥

2.2 電子資料委員会（旧新聞・雑誌委員会）

7月16日の第1回委員会で、電子購読を優先することを確認したうえで新規研究用・学習用雑誌およびバックナンバーの選定を行った。また、10月28日の第2回委員会で新規契約電子資料の選定および学習用雑誌・バックナンバーの選定を行った(選定内容は別項「新規契約電子資料一覧」の通り)。これにより、2009年度は研究用雑誌28誌(うち洋20誌,和8誌)学習用雑誌7誌(うち洋2誌,和5誌)、バックナンバー17誌(うち洋6誌,和11誌)を新規契約・購入した。

2.3 特別資料選定委員会

第1回募集後、6月25日に第1回委員会が開催され審議を行った。その結果、応募資料5点の中から1点「潮干のつと」を選定し、図書委員会に推薦し、購入した。この購入で予算の大半を執行したため、第2回募集は行わなかった。

2.4 アフリカ文庫選定委員会

5月29日に第1回委員会を開催し、図書の選定のほか、運営内規の改定の上、委員3名の新規加入を承認した。これにより、2009年度アフリカ文庫委員は8名となった。11月27日に第2回委員会を開催し、新委員の紹介のほか、2010年4月からのイベント「アフリカを読む」の開催を決定した。

イベントは、「ダカール大学、文化的遺産から市民社会へ」と題したセネガルのダカール大学学長アブドゥ・サラム・サル氏の講演会を10月9日に中央図書館多目的ホールで開催、また、12月15日開催のリビアのカダフィ大佐と学生とのサテライト集会では協賛として参加した。2010年4月より読書推進イベント「アフリカを読む」を各図書館で開催する予定である。

2.5 ケベック文庫選定委員会

2009年度はケベック州政府との協議の結果、データベース費用の助成は中止し、前年までの繰越金額である70万円と今年度の州政府助成金4000C\$で図書購入を行うこととなった。4000C\$分は州政府が図書を購入し、寄贈として本学に送られた。

7月27日に委員会を開催し、州政府からの助成金の有無にかかわらず、活動を継続していくことを確認し、今年度のケベック文庫用本学予算である100万円分の選書を行った。

前述の70万円と4000C\$分の図書は、ケベック州内の図書輸出代理店「Exportlivre」へ発注した。発注連絡や重複調査には時間と手間を要したものの、発注した図書のほとんどを入手でき、懸案だった、発注後に多く発生する入手不可図書を減らす一つの解決策となった。

2.6 江戸文藝文庫選定委員会

本年度は特に委員会を招集せず、主にメーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行なった。

本年度に購入した資料は、以下6点である。

- ・ 「伊達模様紅葉打懸」橋本徳瓶作；勝川春扇画 [江戸後期]
- ・ 「月都大内鏡」曲亭馬琴作；彩霞楼國丸画 [江戸後期]
- ・ 「戯作六家撰」[本活東子著] [書写年不明]
- ・ 「頼光太平礎」蘭徳斎 [画] [寛政 2]
- ・ 「大盃四天王星兜」富川房信画 [江戸後期]
- ・ 「清盛一代記」戀川春町 [著]；南喬齋画 [江戸後期]

2.7 蘆田文庫選定委員会

例年のとおり、定例の委員会の開催は最小限にとどめ、相互の連絡による機動的な選定活動を行った。本年度の特記すべき収集資料をあげる。

- ・ 環海航路日記 / 廣瀬保庵著；廣瀬一孝，廣瀬愛親[共]校
- ・ 蝦夷國図説：松前蝦夷地之図 / 古川古松軒原図(嘉永頃写?)
- ・ 萬國人物之圖. 一 榮壽堂

なお、蘆田文庫新収資料については、図書館紀要『図書の譜』に目録を随時掲載する予定である。

2.8 日本近代文学文庫選書委員会

年度の初めに委員会を開催し、日本近代文学文庫選書基準(案)を承認した。

また、2009年度の選書方針・方法を決め、以後、資料の選定を7月と、2月に行い、北村透谷『蓬莱曲』(養眞堂, 1891), 平塚らいてう『圓窓より』(東雲堂書店, 1913), 堀口大学『パンの笛』(初山書店, 1919), 川端康成『伊豆の踊子 限定版』(江川書房, 1932), 『堀辰雄詩集 [限定版 A]』(山本書店, 1940)の5点を購入した。

購入した資料は2010年度に中央図書館ギャラリーで展示・公開する。

2.9 図書館基礎資料選定委員会

委員会を3回(7月10日, 12月21日, 2月23日)開催し、選定候補から購入資料を決定した。選定内容は別項「図書館基礎資料購入一覧」の通り。

2.10 図書館紀要編集委員会

第14号を刊行した。(A5判, 301頁, 2010年3月31日刊行)

2008年7月15日に編集委員会を開催し、第14号の編集方針について議論を行なった。

今号は、特別資料紹介、『蔵書の玉手箱』を中心に図書館の蔵書を紹介している。その他、特色GP 海外大学図書館視察報告、杉並区図書館ネットワーク講演会、中央図書館ギャラリーの活動報告や、「文学部第一回読書感想文コンクール」、「知の森:商学部教員が商学部生に薦めるこの1冊」、大学院生からの投稿など、実に様々な論文・論考が掲載されている。

2.11 「らいぶ」編集委員会

第16号を刊行した。年1回、新入生向けの内容とし、3,000部印刷した。記事は、図書館からのメッセージ、教員からの読書のすすめ、先輩から贈る新入生への図書館活用アドバイス、「図書館活用法」履修のすすめ、図書館利用に関わる基本用語集、2009 ベストリーダー、和泉図書館代替えのお知らせ等で、本紙の主旨である「図書館からの学部生向け広報誌」をいかし、可能な限り平易な読み物に仕上げた。A4版, 12頁, 2010年3月31日刊行。

2.12 利用案内編集委員会

第1回(10月6日), 第2回(11月17日)の計2回の会議を開催し、3種の利用案内を刊行することとした。

「利用案内(本体)2010」16,000部,「OPAC ユーザーズガイド(2010)」1,800部,「教員用利用案内 2010」1,400部とした。「OPAC ユーザーズガイド(2010)」は,利用状況を反映して,1,600部とした。「教員用利用案内 2010」は,専任教員用ポストに配布しており,利用状況と経費の関係で1,300部とした。「文献の探し方(2010)」に関しては,2009年度特色GP事業として「ガイド」を作成することが決まっていたため,内容に重複する部分があるという理由で今回は発行しないこととした。

2.13 生田図書館ギャラリー運営委員会

2009年度は2010年3月8日に開催された。2009年度のギャラリー展示報告の後,2010年度について政策経費「中央・生田図書館ギャラリー展,図書館企画講演会及び図書館広報活動の展開」に基づき,印刷製本費・消耗品費として180万円の予算がついたことが報告された。続いて,2010年度展示企画として,応募10件と図書館企画2件,計12件の実施を承認,また,ギャラリーの運用指針である「Gallery ZERO 利用案内」を修正した「生田図書館 Gallery ZERO 利用規約」を承認した。